

二〇二二年度 桐朋女子中学校入学試験 (A入試)

筆記試験 (国語)

受 験 番 号

氏 名

【注意】

- 一、問題冊子が配られても、開いてはいけません。
- 二、問題冊子は1ページから21ページまであります。
- 三、「はじめてください」と言われたら、まず、問題冊子の表紙と解答用紙二枚に、それぞれ受験番号と氏名を書きなさい。
- 四、答えはすべて解答用紙に書きなさい。
- 五、問題冊子に書きこみをしてかまいません。
- 六、「やめてください」と言われたら、すぐに筆記用具をおき、解答用紙も問題冊子も表を上にして、机の上におきなさい。
- 七、試験時間は四五分間です。

一、次の①～⑮の——線部のカタカナを漢字に直しなさい。また、⑯～⑳の——線部の読みをひらがなで答えなさい。

- | | |
|-----------------|--------------|
| ① たんすに服をシュウノウする | ② フコウヘイな制度 |
| ③ 日本ドクジの文化 | ④ 鳥のスバコを作る |
| ⑤ ジュクレンの技を持つ職人 | ⑥ カンダンの差が大きい |
| ⑦ 水がジョウハツする | ⑧ 花をソナえる |
| ⑨ 飛行機をソウジュウする | ⑩ 歴史のコウギを受ける |
| ⑪ 友人をマネク | ⑫ イバラの道を歩む |
| ⑬ 土地がコえる | ⑭ 絵画をヒゾウする |
| ⑮ コクモツを輸入する | ⑯ 濃厚な味の牛乳 |
| ⑰ 額にあせをかく | ⑱ 目上の人を敬う |
| ⑲ 問題の解決に努める | ⑳ 同窓生が集まる |

二、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。ただし、字数制限のある問いに答える場合、「、」「や」「。」「等」も一字と数えます。

一人で机に向かって、ねじり鉢^{はち}巻^{まき}きをして、いろいろな問題を解いていても、新しい発想やちがう意見はなかなか出ません。そうではなくて、小グループで考えることが大事なのです。①そのグループ学習の一つの形に、チュートリアル学習があります。

私が勤めていた東京女子医科大学では、私がいたところからチュートリアル教育をしていました。チュートリアル学習とは、課題を^{あた}与えて、一グループ六人で、その課題をどうやって解いていったらいいのか、話しあってまとめていくのです。チューターという指導者がいて、話しあいがとんでもない方向に向いたときだけ、こっちのほうをもう一回考えてみたらというふうにもっていく。そういうやり方をします。

病気について、何の病気か、どのように^{しんだん}診断するか、さらにどのように^{ちりよう}治療するかを、グループで学んでいくのです。たとえば*胸部X線像に異常があるという資料が出てくると、正常な胸部X線像はど
うなのか、それとくらべて、これは何なのか、がんなのかしら、というように、参考書も見たりしながら、自分たちで答えを見つけていくのです。一人では議論が進みませんが、六人ぐらいでやると、手分けして調べることができるとし、議論が進みます。

たとえば、患者^{かんじや}さんの^{しょうじょう}症状について「坂を登るときに、息が切れる。それがどんどん強くなってくる」とだけ書いてあります。その文から、どこに問題があるのかをグループで話しあいます。

坂道を登っているときにだけ息切れが起これるとなると、「動作時の息切れ」ということです。そういうキーワードを見つけると、ではそれはどういう病気で起これるか調べてみようということになります。調べてみると、肺の病気かもしれないし、心臓の病気かもしれない。二通りの可能性があるので、肺のほうを調べる係と心臓のほうを調べる係に分けます。肺の病気にもいろいろあるので、私はこっちを調べるから、あなたはこっちを調べて、というように分けて調べていきます。そして集まって、調べたことを報告しあいます。

つぎに、その患者さんがお医者さんに^み診てもらい、肺機能を調べて、心電図をとり、胸の写真を撮^とった*所見が出されます。その所見について、みんなで調べて話しあいます。すると、これは肺の病気で

はなく、心臓の病気のようなとなります。そこで、さらに検査をすると、こういう所見が出ましたというように、だんだんくわしい検査の所見が出てきます。最初からすべてが出てくるのではなく、先へ進むごとに、つぎつぎに出てくるようになっていきます。それが、考えることにつながります。

一週間かけて一つの課題に取り組んで、つぎの週はまた別のテーマに取り組む。それを一年生のおときから三年生まで、午後はほとんど毎日やっているのです。これで、調べ方が身につきますし、自分だけの狭い見方・考え方でなく、いろいろな見方・考え方が身につきます。また、もちろん多くの症例に触れられ、その判定のしかたもかなり身につきます。もう一つ、コミュニケーション能力も身につきます。

② 江戸時代中期の 蘭方医である杉田玄白（一七三三—一八一七）たちが『ターヘル・アナトミア』を訳

して『解体新書』を出したのは、まさにその方式でした。『ターヘル・アナトミア』は、一七二二年にドイツで出版されたクルムスの『解剖図表』をオランダ語に翻訳した書物です。それを翻訳しようということになったときのこと、玄白の手記『蘭学事始』に「長き春の一日」として書かれています。

オランダ語で書かれていることに加えて、人間の体内がどうなっているかなどまったくわからなかった時代のことです。ところが、玄白と前野良沢、中川淳庵の三人は、一七七一年三月四日に骨ヶ原刑場（現在の東京都荒川区南千住にあった）で処刑された罪人の死体解剖を見学していました。そのとき、玄白と良沢はそれぞれ『ターヘル・アナトミア』を持参していたので、解剖された体内を『ターヘル・アナトミア』の図と照合しながら見ていたのです。すると、目の前にある人体内部の形が、なんと『ターヘル・アナトミア』の図と同じだったのです。

これに驚いた三人は、帰り道に「この『ターヘル・アナトミア』を日本語に翻訳しよう」と決意し、翌日から前野良沢邸に集まって、翻訳にとりかかりました。ところが最初は、とっかかりがまったくあり

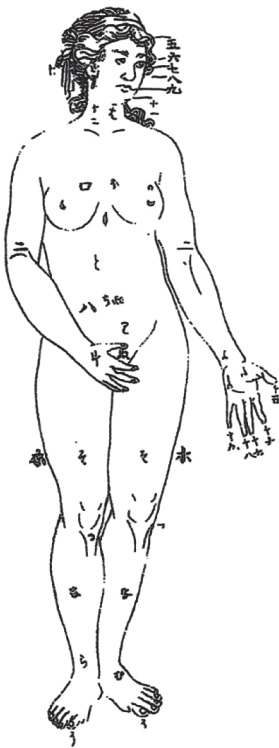
ませんでした。あるとき、体表の図に番号が書いてあり、番号の説明が出ているのに気づきます(図4・7)。それは『ターヘル・アナトミア』の最初のほうではなく、後のほうに出てきます。体表の部分なら、自分たちもすべてわかります。だから、ここからやりましょうということと、そこから翻訳をはじめたのです。グループでやっていたために、それに気づき、^I突破口^{とくぽこう}が開かれたのです。そしていろいろと検討しながら、二年半くらいでほぼ全部を訳し終えることができました。

形體名目篇圖

背



向



○形體名目篇第二

○夫體者幹也。分之爲三等。

上體者頭顱也。見于第六篇其屬之者

顱至項髮生處也。其細屬之者

前頂者額上也

後頂者從項下至項也

顱顱者耳前動處也

頂巔者髮之長處也

面其屬之者

額者從眉上至髮際也。凡人老則皺

生焉

鼻者見于第十一篇

眼瞼及眉者見于第九篇

図 4.7 『解体新書』の「背」「向」図と本文(『ターヘル・アナトミア』の図に記された記号・番号を、カタカナ、ひらがな、漢数字に変えて記している。本文は一が前頂、二が後頂などと図と対応しているのがわかる)

前野良沢は多少オランダ語が読めて、自分も前からこういうものを読もうと思っていましたが、仲間がいないとできないと思って II 躊躇していたのです。だから、杉田玄白が「翻訳をしよう」と言いだし

たとき、すぐに「いっしょにやろうじゃないか」と言って参加しました。

このように、グループで学習するのは、おたがいにはげましあえるし、だれかが気づいたことをみんなですぐに共有できるし、とても意欲を高めてくれる方法だと思います。

学習だけでなく、部活動もとても大切だと、私は考えています。

部活動でもっとも大切な役割は、集団で行動することによって、社会的な適応性をつくることだと考えています。一人だけでできるスポーツや文化活動もありますが、みんなで集まっていっしょにすることも多いので、とても意味があります。私たちの日常は、社会的な関係で成り立っています。③社会的な関係の中で、自分の活動がうまくできるような姿勢を学ぶうえで、部活動をすることは重要なのです。

合宿にも大きな意味があります。私が所属しているオーケストラも合宿をします。短期間でもいっしょに生活することによって、おたがいの呼吸が合ってくるのです。呼吸を合わせるには、いっしょに生活しないとできません。

医学部の場合、部活動を一生懸命^{けんめい}していた学生はだいたい、将来的に医者として伸びます。学業成績がよかったか悪かったかはあまり関係ありません。優等生で卒業しても、医者としてはぜんぜん駄目^{だめ}という人もたくさんいます。私の経験では、信頼^{しんらい}できる医者になるのは部活動を一生懸命やっていた人が多く、とくに部長やマネージャーをしていた人は伸びています。コミュニケーション能力が磨^{みが}かれています。

たくさんの人といっしょに働くことになったとき、まわりの人たちとの呼吸の合わせ方がわかるといふことだと思います。それはⅢ付和雷同^{ふわらうどう}するということ意味ではありません。まわりの人が自分に何を期待しているのか、自分がまわりの人たちを動かすにはどうしたらいいのか、そういう間合いのはかり方が

部活動の中で養われるのです。(中略)

東京女子医科大学の学生オーケストラは、三年生が幹部ですが、思うようにみんなが動いてくれないという悩みがあるようです。しかし、そういう経験をすると、人間の多様性を知るとか、部員が自分が考えているように動いてくれるにはどうしたらいいのかを考えるようになります。そういう立場を一年でも経験するのは、すごくいいことだと私は思います。だから、部活動は一生懸命やるのがいいのです。

その経験は、もっとも大切な記憶になるかもしれません。人との接し方は、*エピソード記憶としても、*意味記憶としても脳に蓄積^{ちくせき}され、体で覚える*手続き記憶にもなります。何かあったときに、さっさと体が動くようになります。部活動を積極的にする学生は「私、何したらいいんですか?」とは聞かないで、自分ですべきことを見つけられます。私が東京大学病院にいたとき、「私は、何をすればいいんですか?」と聞く若い医者さんがいました。有名校から入った成績優秀^{ゆうしゅう}な学生でしたが、部活動をしておらず、知識はあっても、体で覚えた記憶^{きおく}がないから、自分で見つけられないのだと思いました。

このように④社会的な行動の能力を身につけることは、ほんとうに大切です。

私がいま心配しているのは、⑤インターネットでいろいろな知識を得て、満足してしまう人が多いことです。

たとえば、いろいろな病気の情報をインターネットで調べて、「こう書いてありました」と言ってくる患者さんがいます。私はそういうとき必ず「あなたは医学の論文を書いたことがありますか」と聞きます。書いたことのある人は、自分で読んだ内容を批判できるからです。しかし、医学論文を書いたことがないなら、「ネットの検索^{けんさく}は、あなたにとって危険だからやめなさい」と言います。ネット学習は批判

能力を身につけるのに不向きです。ネットで調べたことは、鵜呑みにするのでなく、さらに文献に直接あたって確かな知識を得ることが必要です。

私が学生だったときに、医学論文を批判的に読むという教科がありました。グループごとに歴史的な論文を渡され、それをきちんと説明できるように読むという教科です。すると、「この実験データではこまでは言えるけれど、それ以上は言えないじゃないか」というような批判点が見つかります。それを見付けさせるのが課題でした。英語の論文だったから大変でしたが、とても勉強になりました。

昔は覚えることが少なかったから、そんな授業ができました。しかし、いまは知識をぎゅう詰めに覚えなないと、国家試験に合格できませんから、そんな論文精読の授業はありません。ですから、どうやって批判能力を身につけるか、しっかりと考えなければなりません。

そのためにもグループ学習は大切です。仲間の意見や発表に対して、その場で「きみはそう言うけれど、これについてはどうなの？」と質問したり、意見を述べることができます。すると、言われた仲間には「あ、そうか。それは調べていなかった。調べておくよ」ということになり、話がどんどん展開していきます。そういうディスカッションの能力をつけるためにも、グループ学習はとてもいいのです。中学や高校でも、一定の時間はグループになって、共同で何かを学ぶということをしたほうがいいと思います。

（岩田誠『上手な脳の使いかた』岩波書店）

* 胸部 X 線像 ——— 胸のレントゲン写真の画像

* 所見 ——— 観察結果

* 蘭方医 ——— 江戸時代にオランダの医学を学んだ人

* エピソード記憶 ——— 自分が体験した出来事の記憶

＊意味記憶——学んで覚えた知識の記憶

＊手続き記憶——体や手を動かしたりすることで身についた記憶

問い一、——線部①「そのグループ学習の一つの形に、チュートリアル学習があります」とありますが、

- (1) 「チュートリアル学習」とはどのような学習の方法ですか。次の文の空らん a・b に当てはまる内容をそれぞれ本文中からぬき出して答えなさい。ただし、a は一語で、b は十字程度で答えるものとします。

(a) という指導者のもと、グループで課題の解き方を (b) 方法

- (2) 医学生がこの方式で学ぶことによって、身につくものは何であると筆者は述べていますか。四つ箇条書きにして答えなさい。

問い二、——線部②「江戸時代中期の蘭方医である杉田玄白（一七三三—一八一七）たちが『ターヘル・

アナトミア』を訳して『解体新書』を出したのは、まさにその方式でした」とありますが、

- (1) 『解体新書』を作成したメンバーとして杉田玄白以外に本文中に挙げられている人物の姓名を全てぬき出して答えなさい。

- (2) 『解体新書』が約二年半という速さで翻訳を完成できたのはなぜですか。本文中の言葉を使い、七十五字以内で説明しなさい。

- (3) このエピソードから、グループ学習という方法はどのような点で良いと筆者は述べていますか。良い点について述べられている一文をぬき出し、はじめと終わりの五字ずつを答えなさい。

問い三、——線部Ⅰ「突破口」・Ⅱ「躊躇し」・Ⅲ「付和雷同」の意味として最も適切なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

I

「突破口」

エ	ウ	イ	ア
非常時の出口	解決の手がかり	大胆な手口	奇抜な方策

II

「躊躇し」

エ	ウ	イ	ア
照れてしまってもじもじし	不安になってそわそわし	とほうに暮れてうじうじし	あれこれ迷ってぐずぐずし

III

「付和雷同」

エ	ウ	イ	ア
他人の意見に逆らうことができず、賛成すること	時間をかけてよく考え、他人の意見を理解すること	自分に決まった考えがなく、他人の意見に従うこと	他人の意見を見無視して、自分の意見を主張すること

問い四、4、5ページの図と本文は『解体新書』の体の一部について説明したものです。――線部★の

内容の通りに『解体新書』の「鼻編第十一」を見ると、次のようになくわしい表記があります。

使_ム知_リニ香_ニ臭_ニ瀉_ム涕_ニ洩_ム

【読み方】香臭_{こうしゅう}を知_しり涕洩_{ていし}を瀉_{しゃ}せしむ

(1) 鼻はどのようなはたらきをするものであると書いてありますか。その内容を説明した次の文の空らん a ～ d に当てはまる一字を【読み方】に使われている漢字からぬき出して答えなさい。

鼻は、私たちに (a) や (b) を知らせ、 (c) や (d) を流し出させる。

(2) 空らん (c) や (d) は何を示す言葉だと想像しますか。一つ答えなさい。

問い五、——線部③「社会的な関係の中で、自分の活動がうまくできるような姿勢を学ぶうえで、部活動をすることは重要なのです」とありますが、

(1) 部活動によって何がわかるようになるかと筆者は述べていますか。十六字でぬき出して答えなさい。

(2) 集団を動かすときにどのようなことを考えて経験を積み重ねると(1)で答えたことがわかるようになるかと筆者は述べていますか。それが述べられている一文をぬき出し、はじめの五字を答えなさい。

問い六、——線部④「社会的な行動の能力」とありますが、ここではどのような能力を指しますか。その内容を説明した次の文の空らん a に当てはまる表現を文中の言葉を用いて二十字以内で答えなさい。

集団で行動する中で (a) 能力

問い七、——線部⑤「インターネットでいろいろな知識を得て、満足してしまう人が多いことです」とありますが、筆者はこのように人に、どう改めるのがよいと述べていますか。その姿勢について述べられている一文をぬき出し、はじめの五字を答えなさい。

三、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。ただし、字数制限のある問いに答える場合、「、」や「。」等も一字と数えます。

宝良たからの自宅までは自転車きよりで十分ほどの距離だ。以前には休日きよひに何度か遊びに行ったこともあったが、宝良が前年の十月に事故しこにあつて以来、もう半年近く訪れていなかった。事故後は宝良が入院している病院まで会いに行くばかりだったし、宝良に決定的に拒絶きよぜつされてからはその見舞みまいさえやめてしまった。しかしそんなブランクや絶交寸前の友情のこともこの時は頭から蹴けり出して、百花ももかは君島家きんじまに到着するなり呼び鈴りんを連打した。

「百花ちゃん……おひさしぶりね」

玄関げんかんの扉とびらを開けた紗栄子さえこは、おそらく呼び鈴を連打する不届いじき者を警戒けいけいしていたに違ちがいがない、左手に包丁ほうちようを握にぎって険しい形相ぎやうそうをしていたが、百花を見ると一瞬いつしゆんで敵意を消して目をまるくした。

「おばさん、こんばんは。たーちゃんは？」

「宝良なら、二階の部屋に……」

百花は紗栄子が言い終わる前に「おじやます」と頭を下げて、靴くつを脱ぬいで玄関から上がりこんだ。
(中略)

「たーちゃん、百花だよ。ここ開けて、話があるの」

車いすでも開閉しやすすいスライド式に取り換かえられた宝良の部屋のドアを、百花はノックした。ドアの向こうでかすかに物音が聞こえたが、返事はない。しかし返事がないことは① 想定のうちだったので百花は動じなかった。

「たーちゃん、開けて」「開けてくれないと騒さわぐから」「ノックしながら歌っちゃうから」「十二時間くら

いなら余裕よゆうでノックしまくるから！」とドアを叩たたき続けること二分余り、鍵かぎが開けられる音がした。スライド式のドアがすばらしい勢いで開いた。

「いい加減にしてよ！」

震ふるえあがるような眼光でにらみつける宝良は、百花と同じようにジャージにトレーナーを着てパーカーをはおっていた。百花は、約一カ月半ぶりに会う宝良との目線の違いに衝撃しょうげきを受けた。車いすに乗った相手の顔は、こんなにも低い位置にあるのか。

でも宝良はやはり宝良だった。にらまれると身体がすくむような眼光はそのままだ。その眼光に負けないように百花は腹に力をこめて、ジャージのポケットから出した預金通帳を宝良の鼻先に突きつけた。

② さすがの宝良もたじろいで、車いすを引いた。

「何これ……」

「わたしの全財産。たまに使っちゃうこともあったけど、小学一年生からずっとお年玉貯めてて四十万円ある。このお金で、たーちゃん、わたしと一緒に福岡いっしょに行つて。福岡の飯塚市いづか。五月十二日の火曜日から五月十七日の日曜日まで。車いすテニスのジャパンオープン、見に行こう」

宝良は、しばらく何も言葉が出ないという顔で百花を凝視ぎょうししていた。たっぷり十秒は絶句したあと、ようやく口を開いた。

「……③ ばかなの？」

「たーちゃん、言ったよね。車いすテニスはテニスじゃないって。テニスの妥協たきようで代用品なんだって。でもたーちゃん、車いすテニスの試合、ちゃんと見たことあるの？」

宝良は答えず、唇くちびるを引き結んだ。やっぱり、そうなのだ。百花は預金通帳を突き出したまま続けた。「確かに車いすテニスと、テニスは別の競技だよ。わたしたちがやってきたテニスとは全然違う。だっ

て車いすで走るんだもん。車いすで走りながら球を打つんだもん。それで相手に勝たなきゃいけないんだもん。すっごく難しい、高度な競技なんだよ。ねえ、たーちゃん。車いすテニスはやったことあるって言ったよね。やらされた、って。でもそれ、違うから。確かに車いすテニスだったかもしれないけど、たーちゃんがやったことってレベル1くらいのことでしょ。ううん、レベル0・3かも。その程度で車いすテニスを知った気になっちゃってるの、どうなの？」

内心ガチガチに緊張しながら、百花は挑戦的に口角を吊り上げた。

宝良の目に、ゆらっと炎が燃えるように鋭い光がともった。

そう、この目だ。戦うことに血を湧きたたせる宝良の目だ。

「だから本当の車いすテニス、たーちゃんに見せてあげるよ。飯塚のジャパンオープン、見に行こう。日本どこるかアジア最高の大会なんだよ。世界中のすごい選手が集まって戦うんだよ」

「④ ばかなの？ 福岡って九州じゃない。そんなところに行けるわけない」

「行けるよ。羽田空港から福岡空港まで飛行機で行って、福岡空港から新飯塚まで高速バスで行けば、あとはタクシーでちょちょいのちょいだよ。ちゃんと調べたもんね」

「——だから！ モモは行けるよ、自分の足で九州でも沖縄でも北海道でもシベリアでも行けばいい！ でも私は、こんなだから、九州なんて遠いところ行けるわけない！」

「行きなさい、宝良」

凜とした、と形容するにはやや鋭い声が響いて百花は驚いた。

いつの間にか二階に上がってきていた紗栄子は、まっすぐに歩いてきて百花のかたわらに立ち止まると、娘を見つめた。

「宝良。あなた、パソコンで車いすテニスの動画をいくつも見てたわね。三國智司選手のロンドンパラ

リンピック決勝とか、七條玲選手の全豪オープンとか。本当は関心があるんでしょう。違う？」
え、と驚いて百花は宝良を見た。⑤ 宝良は動揺を浮かべたあと、眉を逆立てた。

「どうしてそれ」

「私に知られるのが嫌なら、次から私のパソコンを使って動画を見た時には履歴を消しておきなさい」
宝良を黙らせたあと、紗栄子は百花に目を移した。

「百花ちゃん、本当に宝良を福岡につれて行ってくれるなら、かかる費用は百花ちゃんの方まですべてこちらで出すわ。お願いできる？」

「えっ？ いや、そんな……！」

「いいのよ、お金ならあるの。宝良の事故の賠償金」

紗栄子が淡々と発したその言葉に、百花はただ息を呑んだ。

宝良、と紗栄子が静かに呼びかけた。

「あなた、人生がくるってしまったと思ってるでしょ。確かにそうね。でも、あなたにけがをさせて、本当だったら一生かかって手に入れられるかどうかのお金を支払うことになった人も、だいたい人生がくるってしまったと思うわよ」

「……だから何？ だからゆるせてこと？」

「そうは言っていない。ただ、あの人はあなたが意識を失ってる間に泣きながら土下座して、いろいろな社会的制裁も受けて、あなたにできるだけの償いもした。それで宝良、あなたは？ これからどうするの？ あんな死んでもおかしくなかった事故を奇跡的に生き延びて、これからも続いていく人生を、あなたはどう生きるの？」

母親に問いかけられて、宝良の瞳が小さくゆれた。

「宝良。これからは車いすで生活することになるって説明した時、あなた言ったわね。『死にたい』って。それは今でも変わってないの？」

⑥ 宝良は唇を引き結んだまま答えない。紗栄子がしみをこめて目を細めた。

「それなら、死ぬのはいつだってできるわ、*めいどのみやげの土産にジャパンオープンを見てきなさい。車いすじゃ九州は無理なんてあんたは言ったけど、ばかばかしい。車いすの選手が世界各地から日本に来るんだから、すでに日本にいるあんたが会場まで行けないはずがないでしょう。アジア最高の大会を見て、ここに帰ってきたその時にもまだ死にたいなら、私が母親として責任をもってあんたに*しんどうを渡すわ」

「おお、おばさん……!?!」

「そうと決まったら、百花ちゃんのおやごの親御さんにもご相談しなくちゃね。今からおじやましてもいいかしら。宝良、何してるの、さっさと準備しなさい」

宝良の母である紗栄子はこの後二人を連れて車で百花の家へ行き、百花の両親にジャパンオープンに行く許可をとりつける。その後、宝良は百花にパソコンで車いすテニスの試合をいくつも見ていたことを打ち明ける。

「……どうだった？」

二秒おいて、すごかった、と返った声は I あまつば 小さな雨粒みだいだった。

★

「車いすの動きがあんまり速くて、なめらかで、地面を走ってるんじゃないかって氷の上を滑^{すべ}ってるみたいだった。あの人たち、コートにいる間ほぼ停まらないんだよ。ハの字みたいに動きながらずっと走って

る。車いすって一回停止すると動き出す時にすごく力があるし、スピードが出るまでに時間もかかるから。あんなに腕を酷使してるのに、どうしてフルセット戦えるのかわかんない。ラケットを持ったまま車いすをこいでるのに、なんであんなスピードが出るのかわかんない。車いすはサイドステップができない弱点があるから、相手に一瞬は背中向けてターンしなきゃいけないけど、あの人たちは背中向ける時に打たれたはずの球筋も読んてる。たぶんターン前の相手の位置とかフォームとか打球音の方向から予測してるんだと思うんだけど、それ、そんなの、もう超能力だよ。……あんなプレー、私には無理。車いすになってから、行きたい場所に行くまでに信じられないくらい時間がかかる。走ろうとしてもすぐに腕が痛くて動かなくなる。車いすを動かすだけで精いっぱいなのに、その上テニスなんてできると思えない。でもテニスを取ったら、自分に何が残るのかわかんない。テニスができない自分が自分って言えるのかもわかんない。わかるのはテニスしてないと苦しいってことだけ。それ以外は本当にわかんないの、全然、何も——」

★

声が震えた瞬間、宝良はきつく唇を噛みしめた。宝良は、人前で涙をこぼすことはおろか、声を震わせることすら自分にゆるさない。

そんな融通がきかなくて頑固で誇り高い宝良が、大好きだった。

そして今ここで車いすに座っている宝良も同じだ。素直じゃなくて意地っ張りで、こんな時くらいは弱音を吐いてもいいだろうに、やっぱりそうはできないほど誇り高い。

宝良は宝良だ。宝良のままだ。何が起きても、これからどんな道を選ぶとしても。

(中略)

テニスをしても、しなくても、自分の足で走っても、車いすで走っても、宝良は宝良だ。宝良が宝良

であってくれればそれでいい。それだけでいい。

けれど、願わくば、見つけてほしい。

これからの人生を照らす、光を。

この後、百花と宝良は実際に車いすテニスのジャパンオープンの試合を観戦しに行く。試合が終わった会場は、二人の選手への拍手と歓声に包まれている。

「——モモ」

ささやくような宝良の声は、二人の健闘を讃える歓声にまぎれてしまいそうだった。

「私、やっぱり」X」

初夏の陽射しを受ける、宝良の瞳。曇りも迷いもなく澄み切った瞳だった。

「私、帰ったらもっとリハビリする。それで、車いすテニスをする」

百花は身動きもできず宝良を見つめ返した。その言葉はもうずっと前からわかっていたような気もしたし、それでも宝良がその言葉を口にしたのは奇跡のようにも思えた。

そうだ、奇跡だ。

死んでもおかしくなかった事故を生き延び、宝良がここにいることも。あのうつろな目でベッドに横たわっていた宝良が、今こうして夢を語っていることも。

胸が熱くなって、目の奥と鼻の奥も熱くなって、気がついたら言葉がこぼれていた。

「たーちゃん、わたしもね、車いすを作りたい」

鳴りやまない拍手と歓声のなか、宝良はまばたきをくり返していた。そして「え？」と、たぶん聞き

まちがえたに違いないからもう一度言ってくれというように眉をひそめながら片耳をこちらに向けた。その宝良の顔がおかしくって、なんだか空も飛べそうなくらい気持ちが浮き立って、百花は宝良の車いすのアームレストに両手をおいて抱きつくような勢いで身を乗り出した。宝良はたじろいだ表情で身を引いた。

「たーちゃん、空港であの車いすに乗った？ 金属探知機に引っかからない車いす」

「え、うん……」

「あれ、すごいよね。かっこいいよね。車いすってかっこいい。今日試合見てますます思った。どうして選手があんなに激しい動きしても倒れないんだろう？ なんであんな氷の上を滑ってるみたいに見えるんだろう？ そうだ、たーちゃん見た？ この会場に選手の車いすを修理する人が来てるの。藤沢製作所っていう車いすメーカーの人。あの空港の車いすを作ったのも、その藤沢製作所なの。あと試合中にちらっと見えたけど、七條選手の車いすにも『FUJISAWA』って書いてあった。ねえすごいね、たーちゃん。世界には車いすを作ってる人たちがいるんだよ。車いすの人のことを考えてる人たちがいるんだよ。どうしたらもっと便利になるかな、どうしたらもっと速く走れるのかなって毎日研究してる人たちがいるんだよ。わたし、今日まで知らなかった」

⑦ 初夏の清々しい風が頬をなでていく。澄み切った風が胸にも吹き抜ける。初めて知った。夢を見つけた時、こんな気持ちになるということ。

「わたし、将来は藤沢製作所で働きたい。それで競技用車いすを作りたい」
宝良の目がみるみるまるくなる。百花はにんまりした。

（阿部暁子『パラ・スター〈Side 百花〉』集英社）

* 冥土の土産——死ぬ前に心残りがないようにやっておくこと

* 引導を渡す——最終宣告をすること

問い一、——線部①「想定のうちだったので」とありますが、なぜ百花は宝良の反応があらかじめ予想できていたのでしょうか。次の文の空らん a ～ c に当てはまる言葉をそれぞれ本文中からぬき出して答えなさい。

百花は、宝良の（ a ）に行くことを宝良自身から（ b ）されて以来、二人の関係は（ c ）の状態だったから。

問い二、——線部②「さすがの宝良もたじろいで、車いすを引いた」とありますが、この時、宝良はどのように感じていたのでしょうか。最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 震えあがるような眼光でにらまれ「いい加減にしてよ」と言われたので、驚いている。

イ 呼び鈴を連打され「開けてくれないと騒ぐから」と言われ、恐ろしく思っている。

ウ 車いすに乗っていることで顔の位置が低くなることを実感し、衝撃を受けている。

エ 自分に負けないくらいの勢いで目の前に予想外のものを突きつけられ、うろたえている。

問い三、——線部③「ばかなの？」・——線部④「ばかなの？」とありますが、この言葉は、どのようなことに対して言われた言葉ですか。二点にまとめて答えなさい。

問い四、——線部⑤「宝良は動揺を浮かべたあと、眉を逆立てた」とありますが、この時の宝良の気持ちを表す言葉として適切でないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 怒り イ とまどい ウ あきらめ エ 驚き

問い五、——線部⑥「宝良は唇を引き結んだまま答えない」とありますが、この時の宝良の気持ちとして最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア どう生きていくか考え始めてはいるものの、それを言葉にできるほど素直になれずにいる。

イ 事故当時に死にたいと思った深い絶望感を今でもそのまま変わらずに持ち続けている。

ウ 事故の償いとして得たお金のことは考えたくないのに、母親に言われて怒りを覚えている。

エ これからの自分の将来については自分なりに考えているので口出しされたくないと思っている。

問い六、線部 I「小さな雨粒みたい」に用いられている効果的な表現方法を何と言いますか。答えなさい。

問い七、★と★の間は、車いすテニスの動画を見た後の宝良の言葉です。ここから読み取れる宝良の気持ちを次の三点にまとめた時、それぞれの空らん a 〓 c に当てはまる内容を考えて、「気持ち」につながる形で答えなさい。

・ テニスに対しての (a) 気持ち

・ 車いすテニス選手に対しての (b) 気持ち

・ 自分の将来に対しての (c) 気持ち

問い八、本文中の「 X に当てはまる言葉を五字以上十字以内で答えなさい。

問い九、線部 ⑦「初夏の清々しい風が頬をなでていく。澄み切った風が胸にも吹き抜ける。」とあり

ますが、これは登場人物の心を反映した風景として描かれています。

(1) 誰^{だれ}の気持ちを表した表現ですか。名前を答えなさい。

(2) 具体的にどのような気持ちを表現していますか。六十字以内で答えなさい。

